

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

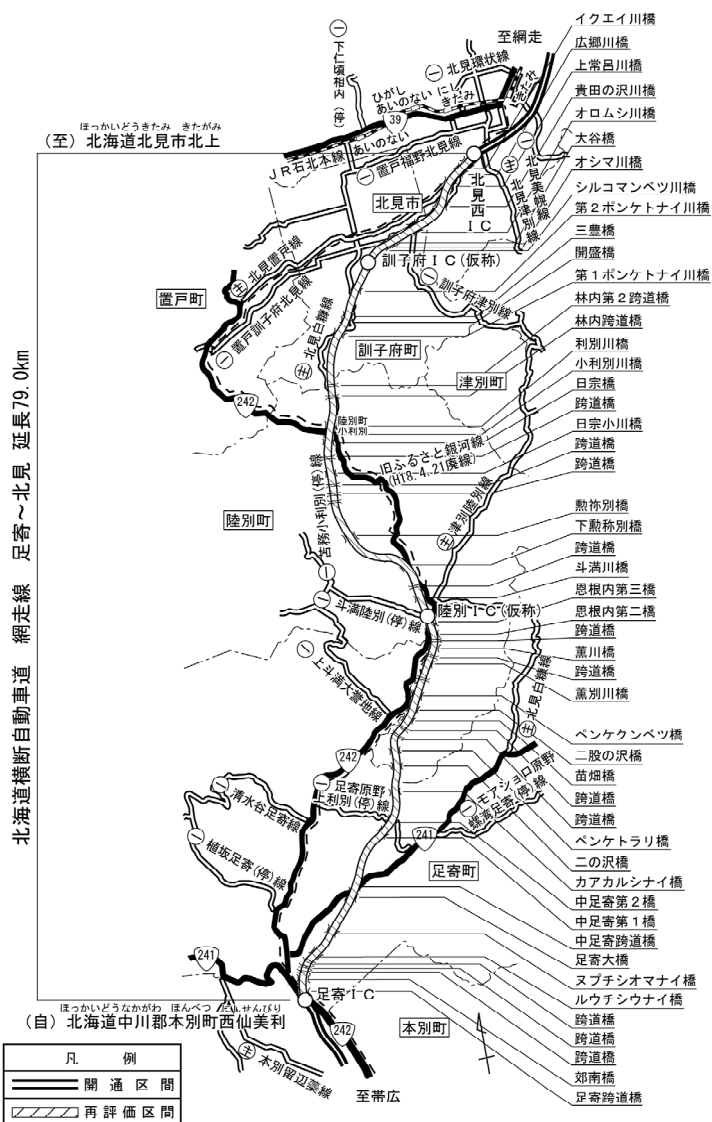
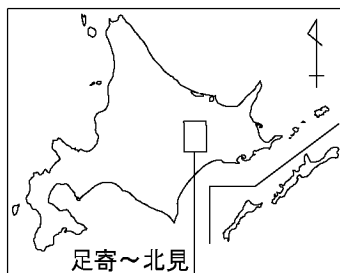
担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名	北海道横断自動車道 足寄～北見		事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局	
起終点	自：北海道中川郡本別町西仙美里 至：北海道北見市北上				延長	79.0 km	
事業概要							
北海道横断自動車道は、黒松内町を起点とし、小樽市、夕張市、清水町、本別町等を經由して根室市・網走市へ至る延長約694 kmの高速自動車国道である。 このうち足寄～北見は、高速ネットワークの拡充によるオホーツク圏と道央・十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、物流効率化等の支援を目的とした、足寄ICから北見西ICに至る延長79.0 kmの事業である。							
H15年度事業化		H一年度都市計画決定		H17年度用地補償着手		H18年度工事着手	
全体事業費		約1,072億円	事業進捗率		31%	供用済延長	0.0 km
計画交通量		3,700～4,700台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 1.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 727/1,031億円 (事業費：599/903億円) 維持管理費：128/128億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 1,134/1,134億円 (走行時間短縮便益：889/889億円) 走行経費減少便益：177/177億円 交通事故減少便益：69/69億円		基準年 平成26年	
感度分析の結果 事業全体および残事業について感度分析を実施							
【事業全体】交通量：B/C=1.00～1.3(交通量±10%) 【残事業】交通量：B/C=1.4～1.8(交通量±10%) 事業費：B/C=1.1～1.2(事業費±10%) 事業費：B/C=1.5～1.7(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.03～1.2(事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.4～1.7(事業期間±20%)							
事業の効果等							
①主要都市間の利便性向上 ・帯広市と北見市間の所要時間は夏期で23分(冬期は36分)短縮され、地域住民の利便性向上や地域間交流の活性化が期待される。							
②救急搬送の安定性向上 ・陸別町から北見赤十字病院(第3次医療施設)までの所要時間が夏期で14分(冬期は20分)短縮されるなど、救急搬送の安定性向上が期待される。							
③農産品の流通利便性向上 ・北見市から苫小牧港・十勝港への所要時間が夏期で23分(冬期は36分)短縮されるなど、農産品(ばれいしょ59.6千t/年、たまねぎ35.6千t/年)の流通利便性向上が期待される。							
④十勝産飼料の出荷エリア拡大 ・速達性の高いルートが確保され、十勝産飼料のオホーツク地域等への出荷拡大等が期待される。							
⑤日常生活圏中心都市への利便性向上 ・北見市や帯広市への所要時間が短縮し、日常活動圏中心都市への利便性向上が期待される。							
⑥オホーツク地域へのアクセス性向上 ・速達性や確実性の高いルートが確保され、道東観光の主要ルートとして知床五湖やオホーツク流水館等へのアクセス性向上が期待される。							
⑦災害時の緊急輸送ルートの強化 ・内陸部の道路網が強化され道路やネットワークの多重性が確保されることで、被災した地域などからの迅速な救急搬送や救護物資等の輸送の確実性向上が期待される。							
⑧CO ₂ 排出量の削減 ・自動車からのCO ₂ 排出量3,816(t-CO ₂ /年)の削減が期待される。							

<p>関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等：</p> <p>北見市をはじめとする 1 市 6 町の首長等で構成される「北海道横断自動車道北見地区早期建設促進期成会」等より、早期整備の要望を受けている。</p> <p>知事の意見：</p> <p>高速ネットワークの拡充によるオホーツク圏と道央・十勝・釧路圏の連絡強化により、地域間交流の活性化や物流の効率化が図られるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の「当面着工しないとされた区間」を含めた事業の継続について異議はない。</p> <p>なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、先行的に整備しない区間（足寄～陸別）も早期に着手することにより全線供用を図ること。</p>
<p>事業評価監視委員会の意見 当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。</p> <p>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 平成 18 年に「緊急に整備すべき区間」を設定し、事業を進めている。 [平成 18 年以降の周辺地域の社会情勢の変化] ①交通高速ネットワークの整備による地域間交流の増加等 ②人流・物流形態の変化 ③医療の変化 ④観光入込客数の変化 ⑤自然災害の発生 ⑥交通事故の状況 [高速交通ネットワークの整備] ・北海道横断自動車道 本別 IC～浦幌 IC 開通 ・北見道路 北見西 IC～北見東 IC 開通 [市町村合併の状況] ・市町村合併により、「北見市」が誕生 [その他] ・シーニックバイウェイ北海道「十勝平野・山麓ルート」指定</p>
<p>事業の進捗状況、残事業の内容等 平成 15 年度に事業化、平成 18 年度に工事着手して、用地進捗率 99%、事業進捗率 31%となっている。（平成 26 年 3 月末時点）</p>
<p>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き、早期開通に向けて事業を進める。 <足寄 IC～陸別町小利別> 事業の着手に至っていない。 「工事は、北海道足寄郡足寄町から同郡陸別町小利別までの区間について、当面行わない」とされている。 平成 27 年度：（仮称）訓子府 IC～北見西 IC 間 延長 12.0 km（2／4）開通予定 平成 28 年度：足寄郡陸別町小利別～（仮称）訓子府 IC 間 延長 16.0 km（2／4）開通予定</p>
<p>施設の構造や工法の変更等 施設の構造や工法等の変更はないが、引き続きコスト縮減に取り組んでいく。</p>
<p>対応方針 事業継続</p>
<p>対応方針決定の理由 事業の効果、事業審議委員会における審議、知事の意見等を踏まえると、「当面着工しない区間」も含め、事業の必要性、重要性は高まっている。特に、事業効果の早期発現の観点及び生活圏や経済圏の結びつき等から、陸別町小利別～陸別間の優先性が高い。</p>

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。